

一般社団法人
仙台
オペラ協会

会報

第43号
仙台オペラ協会事務局
〒980-0012
仙台市青葉区錦町1丁目3-9
TEL&FAX.022-264-2883

会長挨拶

会長 藤崎 三郎助



会長 藤崎 三郎助

会員の皆さまには日頃よりご支援、ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

当協会は今年、お陰様で設立42年目となり、50周年という大きな目標に向けて希望をもって活動を続けているところです。

本年2月には「パトナでオペラ」と題した楽しい企画を、また6月にはホテル法華クラブ仙台に於いて茶菓子付きのコンサートを行いました。いずれも大変好評で、お運び頂いた皆さまには、改めて感謝申し上げます。

さて、今年の本公演は

モーツァルト作曲の「フィガロの結婚」を上演致します。設立以来、何度も挑戦してきた皆さまよくご存知の演目ですが、オペラですの当然、毎回全く違う作品に仕上がるという楽しみがございます。第42回目となる今回は、指揮に宮城学院大学特任准教授の船橋洋介氏、演出に東北演劇界のリーダー、渡部ギユウ氏をお迎えしました。また加えて、原語上演に備え、森島英子先生にコレペティ稽古をお願いしていると同いました。森島先生は第一人者として国内外で活躍中ですが、当協会にとつて、先生の度重なるご指導は無形の財産となるに違いありません。英断なさった船橋氏と佐藤淳二芸術監督に心より敬意を表



仙台オペラ協会では1985年以來のヘンゼルとグレーテルの公演となりました。今回は、2年ほど前から宮城学院女子大学音楽科に赴任された船橋洋介氏に指揮を、演出には以前「愛の妙薬」で楽しい演出をしてくださった渡部三妙子氏にその役を担っていただきました。キャストは本協会の若手メンバーが中心となつての公演でした。船橋氏は

声楽家の高橋啓三門下生の会にも所属されていて、声のこと・歌のことに的確な指示を出してくださり大変素晴らしいレッスンが重ねられて本番を迎えることが出来ました。演出の渡部氏には、体調の思わしくない中での稽古でしたが、本番ではとても幻想的な舞台が出来上がりました。お客様方も出演者も一気に童話の世界に引き込まれるステキな演出だったと思います。今回も様々なスタッフのお力を得て、40周年の節目から無事に先に進めることが出来ました。財政面では常に苦しい状態が続いていますが、会員の皆様方にはこれからの公演にも引き続き応援の程よろしくお願ひ申し上げます。

します。地方都市でありながら本格的な公演を続けるという事は並大抵のことではありません。9月の公演では関

係各位の努力を想像しながら、モーツァルトの音楽を楽しみたいと思います。皆さまも是非、ご鑑賞下さいますようお願い致します。

「ヘンゼルとグレーテル」報告

佐藤 淳一

出演者のコメント

半世紀前にタイムスリップ?

工藤 留理子

私ことで恐縮だが、震災の年の東京公演「鳴砂」以来、亡き兄が残した子どもたちを育てるため、初めて大好きなオペラから離れる5年を過ごした。やっと復帰できる時を迎え、オペラの神様から出された課題は、「ヘンゼルとグレーテル」であった。オペラ人生三度目の演目だが、今回は本公演。いかに遠い客席まで、オーケストラを越えて歌声を、言葉を届けることができるか?悩んで練習を重ねた日々。本番まで根気強くご指導いただいた船橋先生、向山先生に心から感謝。そして、まるで絵本の世界に飛び込んだかのような三妙子さんの美しい舞台のおかげで、少女グレーテルになりきり、楽しく演じることができた。支えていただいたたくさんの方々本当にありがとうございました。



オペラ「ヘンゼルとグレーテル」

大河原 真歩

幕が上がってからはあつと言う間で、幕が降りた直後はやり通せた喜びと安堵で少し泣きました。初の主役に不安でしょうがなかった私。歌も演技も思うように進めなくて、いつも悩んでいましたが、先生方は我慢強く、最後まで温かく指導して頂きました。先生方、共演する先輩、家族に支えられ、稽古期間を走りきることができました。子育て中の自分にとって、歌に真剣に向き合える稽古はかけがえのない時間でした。稽古がなくなって寂しくなるくらいです。ヘンゼル役をさせていただき感謝しています。



予告 春のインテルメッツォ2018

ガラ・コンサート&オペラ名場面集

2/4(日) 14:00 開演予定

場 所 日立システムズホール 仙台
(仙台市青年文化センター)

本公演迫る!「フィガロの結婚」

～仙台オペラ協会5回目のフィガロ～



仙台オペラ協会は、第37回本公演「ドミンゴ・ジョヴァンニ」以来の再登場! 渡部ギユウさんです。俳優・演出者として、演劇界で幅広く活躍するギユウさん。一人一人の役柄を際立たせ、「フィガロ」を味のある人間ドラマとして見せてくださることでしょう。指揮は、昨年に引き続き船橋洋介さん。作品を知り尽くした緻密な音楽づくりで、キャストをリードしています。開演まで1ヶ月、期待が高まります。(鈴木誠)

演出家

俳優・演出者(SENDAI座☆プロジェクト)。演劇活動の他に一人語りやナレーターとしても活動中。また若手俳優の育成、演劇クラブ、朗読クラブなどの市民講座にも力を注いでいる。2016年 仙台フィルハーモニー管弦楽団「幻想×レリオ」に出演。東アジア小劇場ネットワーク演劇祭で「Alice賞2001」を受賞。日本演出者協会会員。AZ9ジュニア・アクターズ養成講師。山形県庄内町出身。

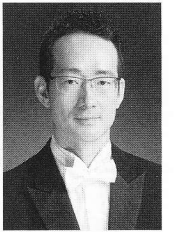
オペラに関しては全くの素人だが、フィガロは演劇だと思い込んで演出中。演劇づくりとは自己解放～コミュニケーション～共同作業のプロセスを経て、観客の代理人としてその身体を舞台に捧げるという儀式。そして言葉との格闘。そこにオペラは生演奏と歌が絡み合う最高の祝祭。演出家だけが頑張る舞台づくりではなく、皆さんとの共同作業で最高の舞台を目指したい。さて、フィガロは喜劇だというのが、喜劇とはお馬鹿さんが沢山登場する世話物芝居。そうするとフィガロのお馬鹿さんは男たちだ。女性たちはまっすぐで愛おしく描かれている。それでも私はお馬鹿な男性陣を応援したい。私自身が男だから。何とも不完全な男たち。優柔不断、口先やろう、恋狂い、出世の亡者、媚びへつらい、自尊心の塊。そんなどうしようもない男たちのキャラクターが際立つことがこのオペラ完成への近道だ。それにしてもフィガロには市民革命の匂いがある。混乱と無秩序の時代への入り口だ。



渡部 ギユウ

指揮から

これほどまでに想像力を掻き立てられるオペラはないだろう。面白おかしいだけの娯楽の世界ではないブッフ形式の頂点を極めた、モーツァルトにとって人生終盤の作品は魅力満載だ。その音楽宇宙の中であって、登場する一人一人の中にあるエネルギーを見事なまでに音と言葉に表した。さらにそれらが合わさったときに生まれる人間の深奥のうごめきとともに、音楽劇作家たるモーツァルトはその人物にのみ相応しいように固有の性格を持つ人物たちを創造した。単純明快に響く音楽、ゆえに難しい。声、歌、そして音楽。その先にはモーツァルトも考え付かなかったような新しい世界が広がっていくような予感が。本番、その時まで、今回の愛すべきチームによる果敢なチャレンジは続く。



船橋 洋介

ゲストキャストより

山形県鶴岡市出身。山形大学大学院修了。声楽を伴和香子、藤野祐一各氏に師事。田島好一、A.Cox、佐藤美枝子各氏より指導を受ける。「デイドとアエネアス」アエネアス「魔笛」パパゲーノ役「こうもり」ファルケなどオペラ出演。M.Haydnレクイエム、G.F.Händelメサイアほかバスソロ出演。山形市立商業高等学校講師。アポロ音楽院声楽講師。女声合唱団さざゆり指揮。山形オペラ協会会員及び事務局長。山響アマデウスコンサートマスター。オペレッタ工房フェアリー・ティルメンバー。MUSICA VERDEメンバー。VOICE STUDIO開講。



鈴木 集

昭和音楽大学卒業、同大学院修了。「ジャンニ・スキッキ」タイトルロールはじめ、「カルメン」「ラ・ボエーム」等オペラに出演。藤原歌劇団公演には「椿姫」召使、ドビニー役、「ラ・ジョコンダ」水先案内人役にて出演するほか、「オリイ伯爵」教育係役のカヴァーを務めている。また熊本築城400年記念オペラ「南風吹けば楠若葉」加藤清正役、ミュージカル「緑の天使」パパ役を演じるなど、幅広い活動を行っている。「第九」「メサイア」「レクイエム」等のソリストも務める。藤原歌劇団準団員。



水野 洋助

武蔵野音楽大学卒業、同大学院院修了。藤原歌劇団団員。武蔵野音楽大学オペラ公演「フィガロの結婚」のアントニオでオペラデビュー。藤原歌劇団公演には09年「ラ・ジョコンダ」のツァーネでソロデビュー。その後は13年「仮面舞踏会」のシルヴァーノ、14年「蝶々夫人」ヤマドリ、15年「袈裟と盛遠」平清盛、16年「天守物語」山隅九平、などで出演している。その他、群馬オペラ協会公演「フィガロの結婚」のフィガロ、「魔笛」のパパゲーノ、など多数のオペラに出演。ベートーヴェン「第九」でのバリトンソロをはじめ、コンサートのソリストとしても活動している。



江原 実

今年度、フィガロ役で出演させていただき事となり光栄の至りに存じます。スザンナ、伯爵をはじめとする様々な人間との関係・模様・ハーモニーを、船橋先生、渡部先生、キャストやスタッフや協会の皆様など関わる全ての皆様と創りあげたいと思っています。

悪役とはいききれず、どこか憎みきれない愛すべき伯爵。それを表現することは難しくもありますが、また楽しみでもあります。仙台の皆様と共にごここでしかできない役柄、舞台を作れたらと思っています。

伯爵役は貴族で敵役でありながらも、どこか憎めない人間臭さを持っています。コミカルな面も出して楽しく演じられればと思っています。また演奏部会員の齋藤翠は私の妻で、初めての夫婦でのオペラ共演となります。どうぞよろしくお願致します。

新・演奏部会員

相羽 紗希(ソプラノ)

名古屋芸術大学大学院声楽専攻修了。在学中、卒業演奏会、「フィガロの結婚」(伯爵夫人)等に出演。2013年よりミラノへ留学。フォーレ「レクイエム」、ハイドン「天地創造」、プーランク「グローリア」、ベートーヴェン「第九」でソリストを務める等多くの演奏会に出演。



鬼澤 梨沙

中学2年から佐藤明子氏、高校2年から高木浩子氏に師事。宮城県第三女子高等学校(現宮城県仙台三桜高等学校)、東北薬科大学卒業。在学中から仙台放送合唱団に入団。仙台オペラ協会第13期研究生を終了。2017年仙台オペラ協会準会員となり活躍中。薬剤師。



仙台オペラ協会合唱団の活動 **お任せください!**



隔週金曜日の夜、私たち仙台オペラシンガーズ(仮)は、歌っている。磨いている。吠えている。時には16歳の純潔な乙女や軽やかな少年となり、またある時はききな臭いジプシー「カルメンシータ」の友となる。合唱はオペラを盛り上げる大切な存在。さあ笑いますとも、泣きますとも。ご要望あれば何でもお応えします。私たち職人ですから。本公演は何? 「フィガロの結婚」か。出番少ないわね。でも「任せて!」

(遠藤 典子)

研究生活動報告

14期生報告



14期生は、Sopの佐藤希さんとTenの中田淳一さんの2名であったが、2年目の前期に中田さんが体調をくずし、研究生を休会することになった。そこで急遽会員の松本康子さんに助演をお願いし、前期は「コシ・ファン・トゥッテ」の2つの女声2重唱を、後期は、同じく松本さんの助演で「アンナ・ボレーナ」の2重唱を研究した。後期は、さまざまな事情で11~1月の練習がほとんど出来ず、2月から練習を始めたような状態だったが、研究生修了の4月1日の合同発表会では、音楽的にも演劇的にもきわめて完成度の高い、迫真の演奏・演技を見せてくれた。(文責: 應和 恵子)

15期生報告

第15期生の一年間の締めくくりは、4月2日の発表会。前期で取り上げた「フィガロの結婚」より、第二幕の三重唱と、第三幕の手紙の二重唱を、後期はイタリア語で演技を付けた。スザンナを菅原史帆さん、伯爵夫人を萩野結さん、伯爵を助演の野崎貴男さん。前期は日本語だったが、アンサンブルに、かなり苦労した。正確な音程でのハーモニーと、リズム、内容表現で、しっかりとした音楽にするのに、時間がかかった。後期の練習では、動きが付く事により、顔の表情も明るくなり、各々の役柄の表現力やアンサンブルに、良い影響があったように思う。一年間での成長がみられた。(文責: 佐藤 順子)



16期生報告

第16期研究生は、ソプラノ吉田香奈さんとテノール今泉翔仁さんです。グルック作曲「オルフェオとエウリディーチェ」から二重唱と三重唱を日本語で練習中です。三重唱のアモーレ役を新準会員の相羽紗希さんに助演でお願いしました。モーツァルト以前の作品への初挑戦で頑張っています。

(文責: 姉齒 けい子)

16期生プロフィール

吉田 香奈

常盤木学園高等学校音楽科卒業。アトランティックユニオン大学(アメリカ)音楽学部声楽演奏科卒業。ロンジー音楽院(アメリカ)修士課程1年次終了。これまで、瀬戸美子、Faith Esham、Karyl Ryczekらに師事。

今泉 翔仁

福島大学 人間発達文化学類スポーツ・芸術創造専攻(音楽)を卒業。声楽を佐藤淳一、竹澤嘉明、今尾滋の各氏に師事。これまでに「魔笛」、「コジ・ファン・トゥッテ」、「後宮からの逃走」などのモーツァルトのオペラを中心に演奏研究してきた。

平成29年度総会開催

去る6月10日(土) ホテル法華クラブ仙台において社員総会が開催され、全議案異議なく承認されました。昨年度決算は、関係者のご支援と演奏部会のみなさんの努力により、164,775円の赤字に抑えることができました。

総会后、「午後のオペラコンサート」が開催され、多くの賛助会員の方々に楽しい時間を過ごしていただきました。



平成28年度事業報告(主なもの)

- 6月11日 役員会・総会
- 7月18日 グリーンプラザ「ふれあいコンサート」出演
- 8月1日 会報第42号発行
- 9月3・4日 第41回公演「ヘンゼルとグレーテル」
- 9月28日 文化庁震災復興のための芸術家
- ～11月9日 派遣事業に出演(山元町ふじ幼稚園、仙台市南光台幼稚園、白石市立南中学校)
- 10月16日 「滝廉太郎コンクール」ゲスト出演
- 11月12日 仙台フィル公演「蝶々夫人」出演
- 11月20日 石巻交響楽団創団40周年公演出演
- 2月11・12日 2017春のインテルメッツォ公演

平成29年度事業計画(主なもの)

- 6月10日 理事会・定時社員総会
- 7月17日 グリーンプラザ「ふれあいコンサート」出演
- 8月1日 会報第43号発行
- 9月2・3日 第42回公演「フィガロの結婚」
- 10月8日 第15・16期研究生前期合同発表会
- 11月末 理事会
- 2月4日 春のインテルメッツォ公演
- 3月 第15・16期研究生後期合同発表会
- 3月末 理事会

- * 各種の出演依頼には積極的に応じて行く
- * 会員加入の促進に努める
- * 財政基盤の強化に努める

役員紹介

会長	藤崎 三郎助	藤崎代表取締役社長
副会長	一力 雅彦	河北新報社代表取締役社長
	〃 亀井 淳一	カメイ専務取締役
理事	相沢 光哉	宮城県議会議員
	〃 姉齒 けい子	オペラ協会演奏部会員
	〃 大泉 勉	宮城教育大学名誉教授
	〃 藤和 恵子	オペラ協会演奏部会員
	〃 佐藤 淳一	オペラ協会演奏部会員
	〃 鈴木 誠	オペラ協会演奏部会員
	〃 高野 光子	ホテルベルエア会長
	〃 八木 洵	エイトリー 社長
監事	熊谷 真人	税理士
	〃 三島 卓郎	弁護士
顧問	亀井 昭伍	前オペラ協会会長
	〃 青木 茂之	前オペラ協会副会長
事務局長	庄子 真希	

仙台オペラ協会平成28年度 損益計算書

収入の部		(単位=円)	(備考)
会費計	2,573,000		
(賛助会員個人)	795,000		
(賛助会員法人)	430,000		
(社員会費)	550,000		(演奏部会員)
(研究生会費)	180,000		
(合唱団会費)	618,000		
入場料計	8,268,945		
(本公演)	7,050,425		
(インテルメッツォ)	1,218,520		
広告費	1,740,000		
共催金	2,500,000		県文化振興財団・市民文化事業団
助成金	4,477,000		芸術文化振興基金2,877千円
			朝日新聞文化財団 20万円
			花王芸術・科学財団40万円
			カメイ社会教育振興財団 30万円
			三菱UFJ信託芸術文化財団70万円
業務受託料	2,868,009		文化庁派遣事業出演他
寄付	2,993,459		協賛金、臨時会費等
受取利息	23		
雑収入	951,403		総会時コンサート会費等
収入合計	26,371,839		

支出の部		(単位=円)	(備考)
出演費	5,164,000		指揮、オーケストラ演奏料等
音楽費	1,442,525		稽古ピアノ費、楽譜代等
文芸費	1,460,000		演出、舞台監督費等
会場費	2,570,045		公演会場費
賃借費	975,030		稽古場借料等
舞台費	5,169,639		大道具、照明、音響費等
謝金	494,985		チラシデザイン料等
事務用品費	190,390		プリンターインク代等
印刷費	972,024		プログラム、チラシ等印刷代
記録費	435,800		写真、ビデオ代等
福利厚生費	7,393		労災保険料等
通信費	305,193		郵便料等
水道光熱費	183,545		事務局電気、ガス、水道代
旅費交通費	1,180,646		交通費、ホテル代等
租税公課	85,800		法人市県税、印紙代等
広告宣伝費	950,808		新聞広告、ポスター掲示費等
会議費	235,964		総会費、理事会経費等
制作諸経費	232,455		スタッフ弁当経費等
運搬費	120,000		大道具運搬費
消耗品費	76,028		紙代、テープ代等
家賃	243,412		事務局家賃
事務委託費	240,000		事務協力員経費
賃金	3,030,125		事務局員人件費等
リース料	235,412		コピー機リース料
支払手数料	60,310		銀行等振込手数料等
雑費	305,085		ドリンクコーナー経費等
減価償却費	170,000		衣装等
借入金返済	0		
予備費	0		
支出合計	26,536,614		*164,775円の赤字です。

平成29年度収支予算書

収入の部		(単位=円)
前期繰越金	400,000	
会費計	3,120,000	
(賛助会員個人)	1,000,000	
(賛助会員法人)	500,000	
(社員会費)	600,000	
(研究生会費)	300,000	
(合唱団会費)	720,000	
入場料計	10,794,000	
(本公演)	8,994,000	
(インテルメッツォ)	1,800,000	
広告費	1,500,000	
共催金	2,500,000	
助成金	6,500,000	
業務受託料	700,000	
寄付	2,500,000	
受取利息	100	
雑収入・未収金	1,030,000	
収入合計	29,044,100	

支出の部		(単位=円)
出演費	6,030,000	
音楽費	1,060,000	
文芸費	1,693,000	
会場費	2,980,000	
賃借費	795,000	
舞台費	6,530,000	
謝金	437,500	
事務用品費	85,000	
印刷費	1,082,000	
記録費	470,000	
福利厚生費	7,000	
通信費	280,000	
水道光熱費	185,000	
旅費交通費	1,117,000	
租税公課	85,000	
広告宣伝費	1,200,000	
会議費	240,000	
制作諸経費	235,000	
運搬費	120,000	
消耗品費	11,000	
家賃	245,000	
事務委託費	240,000	
賃金	2,970,000	
リース料	230,000	
支払手数料	60,000	
雑費	250,000	
前期未払金	0	
借入金返済	0	
予備費	406,600	
支出合計	29,044,100	

編集後記

昨年の本公演は演出助手。ステージに出ないのは久しぶりでした。今年は、3回目の「フィガロ」で初めてのバルトロ役。やはり出演する方が性に合っているなあ。でも、この作品、何度やっても奥が深い。何度やっても楽しめます。やはり傑作ですね。(鈴木 誠)

☆会費納入のお願い☆ 本年度会費が未納の方は、お早めに納入くださいますようお願いいたします。